

総務経済常任委員会

テーマ～町内会は「行政の下請け」なのか？（Aグループ）

「委員会の取り組み」

◎第2回モニター会議の委員共有

- 町内会の必要性 → ・地域コミュニティとしての役割
 ・災害など町内会単位での役割の重要性
- 町内会の課題 → ・会員の加入率の減少
 ・地域のコミュニティの希薄化
 ・役員のなり手不足

町内会は、行政の下請けの関係ではなく自分たちの地域は自分たちで守り、主体的に関わっていくという意識づくりの必要性を確認しました。

◎12月定例会議振り返りから（R2.1.10 ミーティング／町内会活動支援）

- 論点整理 → ・町内会は行政からの依頼にもとづく委員等の推薦や調整事務等を担っている
- ・町内会に代わる団体はない
 - ・現状の経済支援だけでは不十分
 - ・町内会の課題は町内会だけに任せておいても解決しない
 - ・地域担当職員制度が機能しているのか、疑問である

今後の町内会活動支援について調査を行う。

◎第20回委員会調査（R2.2.20／町内会の活性化について）

- ・地域担当職員制度、市街地町内会連合会との連携
- ・町内会活動等の活性化（町民対話）を目的にした新・地域担当職員制度

昨年、町と連携協定を締結した市街地町内会連合会との意見交換会を行いました。町内会会員の減少、町内会活性化のための経済的援助、役場内の事務所スペースの設置、そしてゆるやかな関係、近すぎない距離感のある町内会づくりなどの課題提起がありました。

町内会の現状は年々変化しており、災害など町内会の存在は大変重要です。今後も町の事業等との整合性が図られているか注視していきます。

「町の取り組み」

- ◎市街地町内会連合会との連携協定締結（R1.6.25）
- ◎地域担当職員の町内会加入PR活動
- ◎新・地域担当職員制度

令和元年度 第2回モニター会議 Bグループ委員会総括

令和元年5月14日

テーマ 芽室町の観光って、なに？

記録者 黒田 栄継

発表者 土井 慎吾

グループリーダー 進行役 鈴木 健充

モニター会議のグループディスカッションは、5人のモニターさんと、2人の議員で始めました。

現状の芽室町の観光の問題点は、人が多く来るだけでは経済効果が生まれない。稼ぐことができていないのが、芽室町の観光産業の問題点との意見が、多く出されました。

また、芽室町の観光資源には、新嵐山スカイパーク、芽室公園、素晴らしい景観、芽室遺産、良質な地元の食材、体験型観光では、農業体験、サイクリング、など、素材はいいものがたくさんありますが、どれも中途半端な形が見えます。今後の利活用や、整備計画が明確にされていないのではないかなど、意見がだされました。

芽室町が、観光に対して取り組まなければならない事は、芽室町の観光に対する「コンセプト」観光に対して一貫とした考え方を持つ事が重要であります。今回の会議では、新嵐山や、芽室公園を、もう少し子供たちや家族が楽しめる場所にして、町民の憩いの場になれば、地域外からも、観光に訪れて、経済効果が生まれ、地域内経済循環が始まる。また、町内各所に立っている町関係の看板サインも見直して、きれいな看板を整備し、町や観光地に誘導する看板も必要でしょう。足元から綺麗に整備しましょう。

芽室町民が、住んでよし、訪れてよし、自慢できる町になることが観光関連事業の今後の発展に繋がると思います。

令和元年度 第2回モニター会議 Bグループ委員会総括

令和元年5月14日

テーマ 芽室町の観光って、なに？（Bグループ）

「委員会の取り組み」

◎ 第2回モニター会議の委員共有

現状の芽室町の観光の問題点は、

人が多く来るが、観光地としてみなされてない。

経済効果が生まれず稼ぐ事ができない。

観光産業で稼ぐ体制を整えることが、急務である思います。

芽室町の観光資源は、

- ・新嵐山スカイパーク
- ・芽室公園
- ・6個の芽室遺産
- ・愛采屋
- ・良質な地元の農畜産物
- ・素晴らしい景観
- ・ゲートボール発祥の地 等々

芽室町の体験型観光には、

- ・民泊体験
- ・農業体験
- ・サイクルツーリズムなど

素材的に、いい物が沢山あるが、取り組みが中途半端な形が見えます。

観光資源・体験型観光などは、北海道ならどこの町でも考えているし、町のオリジナリティーが無い事など、モニター会議での意見交換の内容を踏まえて、委員会の共通認識を確認しました。

- ◎ 第19回委員会調査「新嵐山スカイパーク活性計画案について」令和2年1月24日
- 第1回委員会調査「新嵐山スカイパーク活用計画の進捗状況」令和2年5月1日
- 第2回委員会調査「 」令和2年5月14日

現在、町において、新嵐山の既存施設のリノベーション（再生・改革）とビジョンに基づく民間活力の導入を進め、令和8年には、完成の予定です。

今後、新嵐山スカイパークが家族ずれが楽しめる場所になり、先ずは、町民の憩いの場になれば、地域外からも観光に訪れて、経済効果が生まれ、地域内経済循環始まります。

観光産業の中心が、新嵐山スカイパークになれるように、

総務経済常任委員会では、町民の思いを、行政と、

質疑を重ねて行きたいと考えます。新嵐山以外にも、目が、はなせません。